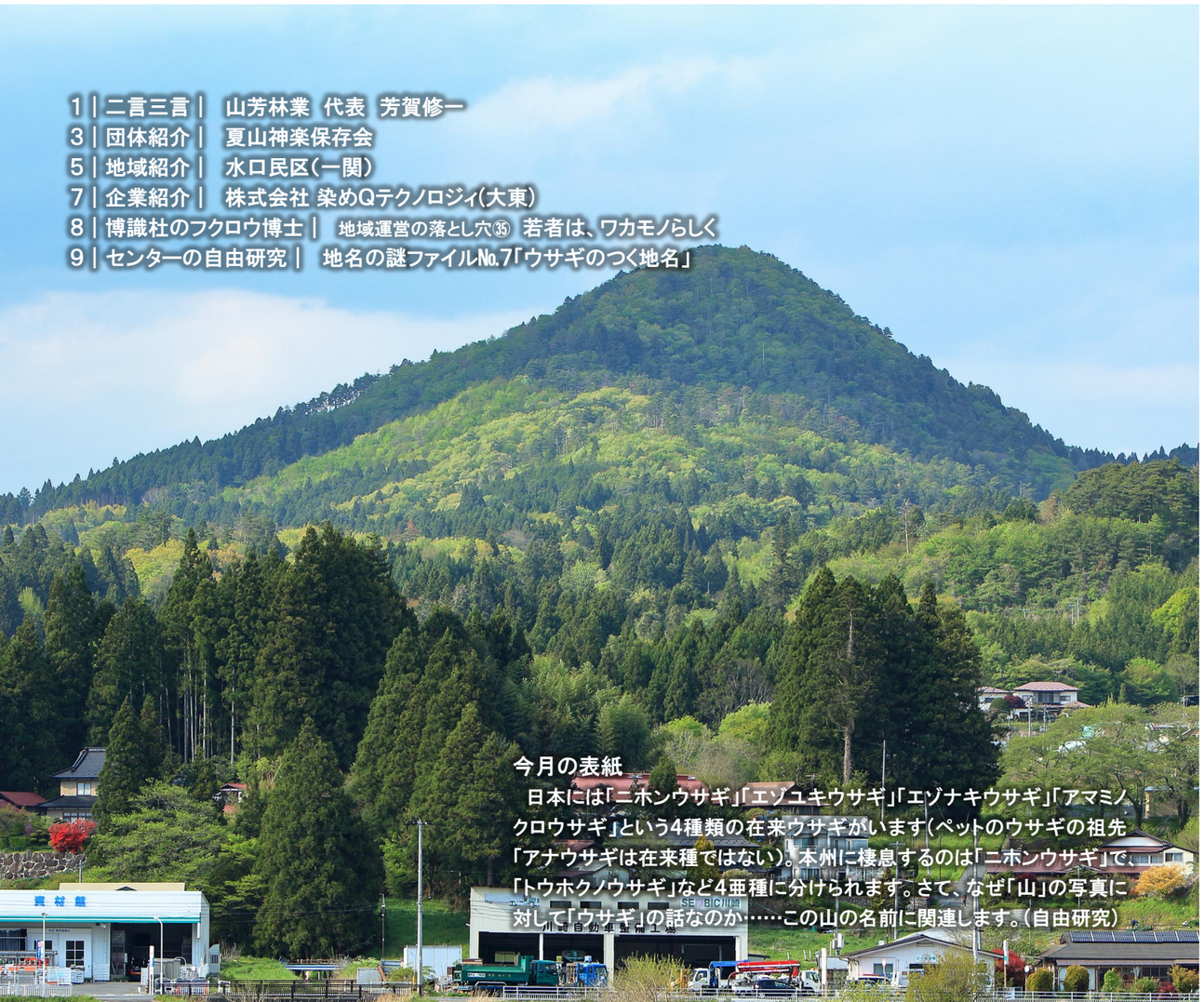
idea

ニュースレター「イデア」

2023. 6

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　山芳林業　代表　芳賀修一
3｜団体紹介｜　夏山神楽保存会
5｜地域紹介｜　水口民区（一関）
7｜企業紹介｜　株式会社 染めQテクノロジィ(大東)
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域運営の落とし穴㉟　若者は、ワカモノらしく
9｜センターの自由研究｜　地名の謎ファイルNo.7「ウサギのつく地名」



今月の表紙

日本には「ニホンウサギ」「エゾユキウサギ」「エゾナキウサギ」「アマミノクロウサギ」という4種類の在来ウサギがいます（ペットのウサギの祖先「アナウサギは在来種ではない）。本州に棲息するのは「ニホンウサギ」で「トウホクノウサギ」など4亜種に分けられます。さて、なぜ「山」の写真に対して「ウサギ」の話なのか……この山の名前に関連します。（自由研究）

idea ニュースレターイデア

発行　いちのせき市民活動センター　せんまやサテライト

〒021-0881　一関市大町4-29 なのはなプラザ4F　Tel 0191-26-6400　Fax 0191-26-6415
〒029-0803　一関市千厩町千厩字町149　Tel 0191-48-3735　Fax 0191-48-3736

ホームページ：https://www.center-i.org/　メール：center-i@tempo.ocn.ne.jp

おしらせ

募集　外国人と交流したい人へ研修会のご案内

一関市国際交流協会では、カフェのようなゆったりとした雰囲気の中で、外国人が日本語や日本文化などを学ぶことができる機会の定例開設を予定しており、そうした場で、参加した外国人と交流したい人を募集しています。

「外国人と交流したい」「お手伝いしたい」という方々と下記日程で日本語やコミュニケーションについての研修を行います。経験、語学力がない方でも気軽に参加可能。詳しくは下記まで。

研修日程：
7月9日、7月22日、7月29日
※内容、時間、会場は日程によって異なる。
申込締切：2023年6月30日(金)
問合：0191-34-4711
（一関市国際交流協会）

情報　「フラワーサークル花道」出張レッスン承り中

2018年2月から一関市小梨市民センターを会場に、季節の花を使用したフラワーアレンジメントやプリザーブドフラワーの作り方を教えている「フラワーサークル花道」では、定期活動以外に、出張レッスンを承っています。

市民センター事業や地域のサロン、学校など、ご要望に合わせた出張レッスンが可能です(料金は要相談)。詳しくは下記まで。お花に関するご相談にも対応しています。

レッスン内容：
フラワーアレンジメントや
プリザーブドフラワーの作り方
問合：090-3121-4894
（代表・西城廸子(みちこ)）

情報　花と泉の公園 LINE公式アカウントにて情報配信中

花泉観光開発株式会社が運営する花と泉の公園(一関市花泉町)では、コミュニケーションアプリ「LINE」の公式アカウントにて、イベント情報やお得なクーポンを定期的に配信しています。

下記QRコードまたは、LINE内で「花と泉の公園」と検索すると、お友達登録ができます。現在、お友達登録すると花苗をプレゼントするキャンペーンも実施中(終了日未定)です。

※旧ベゴニア館内「キッズランドモーリー」の情報は別アカウント(キッズランドモーリー)にて配信中。

問合：0191-82-4066
（花泉観光開発株式会社）

情報　「米粉」の製粉承ります

花泉町涌津の産直施設「古代米おりざ」では、持ち込んだ白米の製粉を承っています。1回の重量が10kg以上であれば、以後は1kg単位で製粉可能です(製粉によって多少グラム数が減ります)。

持ち込んでいただいた白米は、3日程お預かりし、製粉完了後に再度受け取りに来店していただく流れです。製粉後の小分け対応や、籾がついた米の製粉には対応できません。詳しくは下記まで。

内容：持参した白米の製粉(米粉製造)
料金：1kg200円(最低10kg以上)
所要時間：約3日間
問合：0191-82-3372
一関市花泉町涌津字境11-3
（古代米おりざ）

イベント　「みやびの会」第3回チャリティー公演

市内の日本舞踊団体で構成する「みやびの会」では、第3回目となるチャリティー公演を行います。

市内9つの舞踊団体が華やかな舞いを披露し、入場料の一部は一関市社会福祉協議会を通じ、市内の社会福祉事業に役立てられます。前売りチケットの購入は下記まで。

日時：2023年6月18日(日)
10時開演(9時30分開場)
場所：一関文化センター　大ホール
入場料：1,200円(当日券1,500円)
主催：みやびの会(わらび会・松美会・菊燿会・徳寿美会・鶴升会・梅寿会・美咲会・森扇会・五百枝会)
問合：0191-21-2121(一関文化センター)

寄付募集　一関じもっと基金 第1回共感基金募集開始

‘地域のために何かやりたい人’と‘それを応援したい人’を結びつける「一関じもっと基金」。審査会・キックオフ会議を経て、第1回共感寄付の受付を開始しました。

今回は7団体がエントリーしており、8月27日まで寄付を受け付けています。共感する活動があれば、応援をお願いします。エントリー団体は右のQRコードからもご覧いただけます。

募集期間：
2023年4月28日(金)～8月27日(日)
公式HP：https://ijimotto.jp
問合：0191-26-6400
（一関じもっと基金事務局
いちのせき市民活動センター）

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名　「26本の和傘が彩る夜桜たち」

4月6日～13日に行われた一関市千厩市民センターの桜ライトアップ。千厩まちづくり協議会の事業で、4回目の開催ですが、今年は和傘を使っての演出に挑戦。ライトに照らされた和傘と桜が幻想的で、写真を撮影してSNSに投稿する来場者も多かったようです。

旧町村別の人口動態等を共有します。

2023年 **5月1日**付
(2023年4月30日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	108552	-35
世帯数	46371	121
出生数	35	-8

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	54181	46	24518	92
花泉	12013	-13	4712	7
川崎	3235	-7	1279	0
千厩	9841	-2	4114	19
大東	11911	-39	4909	-4
東山	5896	-2	2280	0
室根	4366	-11	1777	2
藤沢	7109	-7	2782	5

171 / 108,552

芳賀修一

「山芳(やまは)林業」代表。岩手県南地域の里山・森林整備及び危険木の伐採を主として、個人宅も含めた依頼に応じている。
豊富な経験と知識を活かし、東磐職業訓練協会の「改正版チェーンソーによる伐木等の業務(特別教育)」の講師も務める。
昭和24年、一関市大東町大原生まれ(在住)。

第106回　山芳(やまは)林業　代表　芳賀修一　×　いちのせき市民活動センター　センター長 小野寺浩樹

林業も「結い」に立ち返って
～里山の「青写真」を描き直すために～

一関市の森林面積は、市の総面積の約63%を占め、そのうちの約88%が民有林で、岩手県の割合よりも20%以上高い値です※1(令和2年度現在)。令和3年9月、「地元の森林を活かす一関市林業振興条例」が制定され、市産木材の積極的な活用の推進や、伐採後の確実な造林による次世代に循環する仕組みなどが理念として掲げられました。民有林整備が重要視される当市において、その実情とは?

小野寺　ここ数年で「自伐型林業」という言葉をよく耳にするようになり、市でも森林整備の担い手確保として、「自伐型林業者の育成」を取組の基本的事項に盛り込んでいます。ずばり、自伐型林業とはどういう林業を指すのでしょうか?

芳賀　大きな分類としては大規模に機械等を使って林業を行う企業に対して、個人やグループで山を管理するような意味合いです。

小野寺　市の指針にも「自家労働作業により収益を得ながら、地域の森林を地域住民が副業などによって手入れを進める自伐型林業者の育成」と書いてあるんですが、具体的なイメージが持てずにいます。

芳賀　農作業でいう「結い」みたいなものです。山の所有者同士でチームを組むんです。お互いに「手持ちでやるべ」となれば、「今月は〇〇家の分な」って、お互いに賃金を発生させずに手入れできるわけです。高齢でとてももう山には行けないという人がいれば、その家からは維持管理費をいただけば良いんです。

小野寺　「おらいの家はおらいで」ではなく、近隣同士で管理するということですか?

芳賀　そう。例えば山の中で所有者が分かれていると、奥の方の人は「出し賃※2」が手前の人よりもかかってしまう。それをみんなで管理するという考え方。

小野寺　なるほど。確かに我が家の山も、山の中で他者の土地と隣接していた気がします。

芳賀　それに、最近では「面積が小さいし売らなくても良い」という人もいます。そういう人の山林を管理する確約を取り、巻き込んでいくことが大事。そうやって管理する体制を作らないと、その代が絶えて消えてしまったら、山が荒れるだけですから。

小野寺　伐り出す作業まで、自分たちでやるんですか?

芳賀　間伐や販売の時には、我々のような林業事業者に相談すれば良いんです。伐ってお金にする方法は様々あります。それに、知識経験がある人が伐らないと怪我をするだけですから。

小野寺　そうすると「山の自主管理グループ」のような感じですよね。「自伐」といっても、伐る前段階を自分たちでやるというイメージでしょうか。

芳賀　そう、「売り方」をどうしようかと考えるのは次の段階。まずは手入れをして、木や山を育てる。山は針葉樹だけじゃないんだもの。広葉樹と針葉樹では売り先が違うし、伐り方やタイミングも違う。

小野寺　実は僕も山を持っているんですが、父が生前に「山の相続はしたけど、その山に行ったことはない」と言っていて、そのまま一度も自分の山に入ることなく逝ってしまったんです。だから僕も相続はしたけど行けていないし、手入れの仕方もわからない。そういう人って少なくないと思うんですが、まずはどうしたら良いんでしょうか?

芳賀　まずは固定資産税の切符※3を持って林政推進課に行くと良いです。そこで「森林現況表」や「森林簿」などを入手できれば、どんな木を何年前に植えたか(≒林齢)がわかるので、今が「伐り時」なのかどうかを確認することができます。

小野寺　山の素人には「伐り時」が分かりませんが、何が目安なんでしょうか?

芳賀　この辺の人工林は今50～60林齢になっているところが多く、手入れがされていれば70林齢くらいまでは木が育つ可能性があっても、そのまま手入れをし続けなければ、やがてはダメになるだけです。であれば、今は国や県の補助事業が様々あるので、間伐して育てていくか、皆伐して次の青写真を描くか…。本来は森林組合がそうしたアドバイスを山の所有者にすべきなのですが、森林組合も人材不足や松くい虫被害の対応等で手が回っていないのが実情。なので私は、補助事業の情報などを持って適正時期の山を見つけたら、所有者に話をするようにしています。

小野寺　結局「自伐型林業」と言っても、チェーンソーで伐倒する技術だけあってもダメで、そうした知識や経験が必要なんですよね。

芳賀　なのでチームを組む時に、そういう知識を持った人を入れるべきなんです。一度しっかり手入れをすれば、しばらくは軽微な手入れで済むわけですから、その間に、知識を持った人には別のチームに入ってもらい、指導してもらうなど、地域の中で複数のチームがつながっていけば良いんです。

小野寺　例えば先ほど「青写真を描く」とありましたが、皆伐して、杉ではない樹種を植林しても良いわけですよね?例えば「メープルシロップが採れる山にする」という目標に向かって、カエデを植える、とか(笑)

芳賀　もちろん。昔は、家の建て替えなどのために杉を植えましたが、今はもう、自分の家の木で家を建てる人はいなくなってしまった。なので、当時の目的とは異なる青写真を描き直さなければいけないんです。それが「マウンテンバイクで遊べる山」でも良いわけです。

小野寺　なるほど!各家が「どういう山にしていきたいか」を考え直す時期なんですね。

芳賀　そして当時は、木を出す時のことまで考えずにとにかく植えているので、林道がないんです※4。そのために、切り捨て間伐ばかりが行われてきましたが、今は間伐材で少しでも収益を得ましょうと、林道整備の補助もあります。

小野寺　「自伐型林業」という言葉に惑わされず、補助事業などを活用しながら、「結い」で多面的な機能※5を持つ地域の里山を、有効に活用していきましょう、ということですね。

芳賀　そして「見られて恥ずかしくない山」にして欲しいです。

山芳林業　住所　一関市大東町大原字畑中19-2
電話　0191-72-3750

※1　一関市(2022)『林業振興の推進に関する基本指針』
※2　伐採した木を森林から搬出する際の費用。作業道や林道がない山が多いため、間伐した木を森林内に残してしまうケースが多く(切捨間伐)、その場合は中間収益に結びつかない。搬出するために作業道を設置するためには、その長さに応じた費用がかかる。

※3　森林の所有者と一致している場合は本人確認書類(免許書等)と固定資産税の切符のみで可。未相続状態である場合などは、その他の書類も必要。
※4　「※2」参照　／　※5　経済活動である林業による木材生産、水資源の確保、山地災害の防止、快適な環境の掲載、保健・レクリエーション、文化の維持及び継承、生物多様性の保全、二酸化炭素吸収による地球温暖化の防止　等(『林業振興の推進に関する基本指針(※1)』より)

団体紹介

夏山神楽保存会

夏山神楽（ルーツは南部神楽系統の竹沢神楽）を伝承することを目的に活動（「保存会」の発足年は記録がなく不明）。令和元年田河津地区で行われた山神社奉納演芸会への奉納を機に会員が増え、現在は20代～60代の９名で神楽の継承に取り組む。

〒029-0301
一関市東山町田河津字夏山174（代表・佐藤）
TEL：090-5350-2148

写真：令和元年11月に行われた「東山文化祭」で御神楽を披露した時の様子

先人の暮らしが育んだ「唯一無二」を守る

夏山神楽保存会

「継承」の意識より「楽しみ」として

山間の夏山自治会館に響く太鼓と摺鉦（すりがね）の音。踊り手は、扇と鈴を大きく振りかざし、軽快な動きで舞います。東山町田河津の北端に位置する夏山・横沢集落に伝わる「夏山神楽（南部神楽）」は、「夏山神楽保存会」によって継承され、隔週日曜日に夏山自治会館にて練習が行われています。同会の発足年は不明（記録がない）ですが、昭和30年代には保存会として活動していました。

「基本的な『御神楽』という演目でも、習得するのに6か月くらいはかかります」と話すのは、代表の佐藤鉄也さん。自身も小学5年生の時から同会で神楽を踊り始め、基本となる「三つ足」の練習に始まり「御神楽」「岩戸開き」「三番叟（さんばそう）」を習ったのだとか。社会人に入り、一度神楽から離れていた時期もありましたが、再び同会の先輩に声をかけられ、半世紀近く神楽の伝承に携わっています。

鉄也さんだけでなく、同会会員の中には、「小・中学生のときは嫌々踊っていた神楽も、今ではやりがいや楽しみを見出しながら踊っています」と、大人になってからその魅力を体感しているという会員が少なくありません。

夏山神楽の歴史と特徴

明治時代に西磐井の住民から南部神楽を教わり、自身の集落（田河津竹沢）に神楽を広めたとされるのが田河津竹沢出身の千葉栄三郎。その甥・千葉勇之進の弟子である高橋寅之助が、竹沢から横沢に分家し、千葉勇之進から伝授された「竹沢神楽」を紹介したことが、夏山神楽の発端です。

夏山・横沢でも神楽を始めようという機運が起こり、大正10年、高橋寅之助を初代師匠として「夏山神楽」が生まれました。

戦前、神楽を踊っていた人は花形スターのような存在で、神様への奉納という目的と同時に、住民にとっても欠かせない娯楽のひとつでもありました。夏山神楽の特徴は、踊り手が四隅に散らばり、四角形を作るように舞うこと。「なぜ、このような回り方になったかは先人にしかわかりませんが、私の知る限り、この手法は夏山神楽と南沢神楽（一関市萩荘）だけではないでしょうか」と、会員の佐藤直人さんは語ります。

また、奥州仕置によって長坂城（唐梅館）を追われた長坂千葉氏・広胤の遺書を元に、高橋寅之助の息子・高橋敏一（故人）が創作した「広胤」など、東山町の歴史を反映した演目が残されていることも夏山神楽の特徴と言えます。

会員不足の危機を乗り越え、令和につなぐ

大正時代から継承されてきた「夏山神楽」ですが、その継承者が減少し、昭和47年頃から小・中学生に向けての伝承活動を始めました。ところが、進学・就職で地元を離れる若者が多く、平成20年頃には当時の師匠（高橋敏一）と鉄也さん、その兄弟子（故・小野寺福藏）という3人での活動を余儀なくされる事態に……。

「師匠が太鼓を叩いていたのですが、師匠が亡くなってから7～8年は兄弟子の福藏さんと太鼓の叩き方を研究しながら2人のみで継承にあたりました。太鼓を叩けるまで2～3年はかかった」と鉄也さんは振り返ります。

令和元年、そんな同会に「山神社奉納演芸会」での奉納の順番が巡ってきました。奉納演舞を行うため、鉄也さんが同集落内に声がけをし、自ら「楽を踊りたい」と志願してくれた人を含め、7人の加入に成功します。

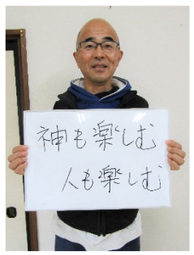
約6か月の練習を経て、無事に10年の奉納（2演目）を終えると、令和4年には2人が同会に入会し、現在の9人体制に。新会員が加わって以降、「山うれし市」「東山地域新年交賀会」など東山町内の主要行事の場で神楽披露することも増えています。

「『華やかで見応えがあった！』などと観客から声をかけられるのが、より嬉しい」と微笑む直人さん。令和4年11月に開催された「芸能祭　民芸能による祈りと絆」では、同会もプログラムの一番手で南部神楽「御神喜（鶏舞）」を披露し「コロナ退散」の願いを込めながら、コロナ禍を経て数年ぶりに観客の前で演目を披露できる喜びを噛み締めました。

鉄也さんは「常に踊りの技術を高めていく部分を考えると、神楽に完成という系は無いと思っています。そういった意味では芸術の1つ」と語りつつ「人それぞれに神楽に関わる意義は違うと思いますが、途絶えさせれば、先人の想いを反映した唯一無二のものが無くなることは間違いないです」と、後世に繋ぐ決意と意欲を見せます。

Q.あなたにとって神楽とは？

代表



A. 神も楽しむ
人も楽しむ

佐藤鉄也（さとう　てつや）さん

小学校時代を含めると活動歴は約50年で同会の中でも一番のベテラン。前師匠、兄弟子たちから教わったことを大切に、今日も軽快に太鼓を打ち鳴らします。

会員

A. ひいじいちゃんの
想いを引き継ぐもの

高橋志帆（たかはし　しほ）さん

令和４年に同会から声をかけられ入会。夏山神楽の継承に熱心だった曾祖父（前師匠）の志を継ぎ、神楽の練習に励んでいます。

- Photo gallery -

使い込まれた摺鉦

太鼓と同様に神楽を舞うリズムの要となる「摺鉦」。内面には叩いた跡がいくつも。ちなみに左下にある摺鉦は80年物。

練習風景

夏山自治会館で行われた練習の風景。ダイナミックな動きを要するため、筋肉痛を乗り越えた先の達成感は格別です。

次の代に残すべく

前師匠たちが現役の頃（平成13年）に発行された「夏山神楽演技本」。各演目の台本とともに道具の一覧、表彰歴などを掲載。

山神社へ奉納

令和元年10月に行われた「山神社奉納演芸会」。田河津全体の祭典に夏山集落を代表して同会が出演し、舞を奉納しました。

「水口公園」を中心に、交流機会を紡ぎ続けて

一関 水口民区（みなぐち）

水口民区（滝沢）

旧真滝村は狐禅寺、滝沢、真柴、三関に分けられ、水口民区は滝沢（行政区は「水口区」）の南東に位置する。86世帯240人（７班体制）が暮らし、主に、区長、総務部長、環境衛生部長、文化体育部長、会計、各班長が中心となり、民区内の事業を行う。

左の写真：水口公園に芝桜を植え替えしたときの様子（令和２年）

水害をきっかけに生まれた民区

戦後間もない昭和22年、23年と一関市（当時）を襲ったカスリン・アイオン台風。多くの人が犠牲となり、住宅被害（流出・半壊・全壊）など、大きな爪痕を残していきました。

住居を失った被災者のために、水害復興住宅が各地で造られ、水口民区が位置するエリアもその建設地として開拓されました。災害で大切な人や家を失くし、希望が見えない状況下で、みんなで力を合わせて生活を支えていこうと、昭和25年頃、避難で移り住んでいた約60世帯で結成されたのが「水口民区（㈱自治会）です。

区長の菅原勝さんは、「私はアイオン台風が襲来した年に生まれ、復興と民区の発展とともに年を重ねてきました。今では道路が整備され、昭和50年代からは国道284号線を中心に宅地造成が進み、住みやすい環境となりました」と話します。

自慢の公園を活用した新たな試み

赤松、桜、カタクリ、芝桜など、四季を感じる木々や草花に囲まれた「水口公園」は、一関市から公園整備事業を受託し、環境衛生部長を中心に、公園内清掃、草刈り、樹木の剪定作業など、民区全体で公園の維持・管理に取り組んでいます。同民区の憩いの場とも言える場所ですが、特に自慢と言えるのが同公園内に植えられている108本の桜です。かつて同民区内にあった岩手県立一関高等学校（当時）定時制真滝分校の生徒が最初の1本を植えてから、少しずつ本数を増やしていき、最初の桜を植えてから76年経った今でも立派に咲き誇ります。

この桜の下で、食事を交えた「お花見会」を行っていた時期（近年は市内の施設等を利用）もある同民区ですが、コロナ禍でお花見会を3年ほど中止しました。しかし、「せっかく綺麗に咲いている桜を住民に見てもらいたい」「コロナ禍で外出の機会が減り、公園に来る機会も減ったので、公園に来るきっかけづくりをしたい」などの声が民区役員を中心にあがりはじめます。

そこで令和4年4月、「お花見会」の代替として、同公園にて民区住民に団子を配布する、その名も「花より団子」を開催。菅原さんは、「子どもからお年寄りまでが、同公園を訪れるきっかけづくりができて良かった。桜だけでなく、他の草花もきっと喜んでいる」と微笑みます。

同年10月、「花より団子」の反響を受け、公園内でナスやりんごなどを住民へ配る「無料朝市」と題した企画を開催。これは新しいイベントとして企画・準備を進めていた「公園まつり」が、新型コロナウイルス感染者の増加で中止になったための代替企画であり、感染対策として、班ごとに時間差で公園に来てもらうように調整しての開催でした。総務部長の赤松昌俊さんは、「自分たちが住むところには、公園があり、その公園が綺麗に管理されていることを伝えられる良い機会となった」と振り返ります。

そのほか、一関市真滝幼稚園の園庭を借りて開催する夏祭り、滝沢地区民運動会への参加、新年会など、年間を通して様々な行事を行い、住民同士の交流を生みだし続けています。

老若男女、どの年代にも住み良い民区を目指して

同民区では、平成29年に発足した「水口ひまわりの会」が運営する「通所型サービスB（通いの場）」の取り組みにも協力しています。同会は、水口民区集会所を拠点に、毎週水曜日にいきいき百歳体操をはじめ、筋トレ、脳トレなどを続け、令和5年3月に300回目を迎えました。同会会長の小野寺明さんは、「『継続は力なり』を合言葉に、コロナ禍になってからも時間を短縮するなどの工夫をして活動を続けてきた。会員が100歳を元気に迎えられるようこれからも活動は続けていきたい」と今後の意欲を語ります。

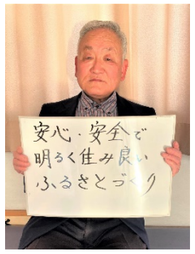
そんな同民区ですが、結成された当時より世帯数は増加したものの、雇用の延長や生活環境などの変化から、役の担い手確保には苦労している現実が。

少しでも若いときから民区活動に関わってもらうため、令和5年度の同民区内PTA総会の中で、今年度の民区の事業や役員の担い手等について話をする機会を設けてもらった菅原さん。

「保護者世代は現役で働いているため、なかなか民区事業までは時間を割くことは難しいかもしれないが、少しでも民区に目を向けてもらいたい。そのためにも地道に話をしていく機会はつくっていきたい」と前向きな姿勢を見せ、時代の変化に対応しながらの民区運営を続けます。

Q.集落の自慢は何ですか？

区長

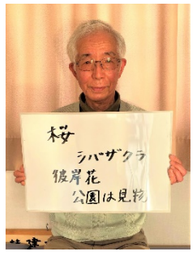


A.安心・安全で
明るく住み良いふるさとづくり

すがわら まさる
菅原 勝さん

６期11年目。同民区で生まれ育った後、就職で関東へ。Ｕターン後は、関が丘に住み、同民区に戻ってきました。「滝沢地域振興協議会」の会長も務めます。

総務部長



A.桜　シバザクラ　彼岸花
公園は見物

あかまつ まさとし
赤松 昌俊さん

６期11年目。会社に勤めていた頃は、転勤が多く、県内外を移動していた赤松さん。民区運営には18年携わり、区長とともに民区運営を支えています。

- Photo gallery -

初開催のイベント

水口公園を会場に令和4年10月に開催した無料朝市には、64名が参加しました。次の企画を楽しみにしています。

みんなで楽しむ新年会

集会所や市内の施設等で行う新年会は、参加者が準備してきた出し物などの披露があります（写真は平成31年）。

メインイベントの一つ

一関夏まつりに合わせて開催される同民区の夏祭りは、多世代が集まる貴重なイベント。今年こそは開催したい思いです。

水口ひまわりの会

活動300回記念事業を開催した時の様子（令和5年3月）。60～90代の25人ほどが会員となり、週1回、活発に活動中！

地域企業の理念にせまります。

大東 株式会社 染めQテクノロジィ

鉄、コンクリート、木部、革布、プラスチックなどに使用可能な新素材の開発・製造・施工を行う。平成14年、自動車板金保修材の開発・製造を行う(株)テロソンコーポレーションは、ナノ単位の粒子が素材の表面に密着し、多種多様な素材を質感そのままで塗装ができるコーティング剤「染めQ」の開発に成功。平成22年、製品名である「染めQ」を用いた現社名に改称。2010年代は「世の中の『困った』を解決」をテーマに、新素材を用いた技術や工法の開発に力を入れ、2020年代からは「大改修時代」をテーマに、これまで取り換えるしかなかったモノの再生・延命、そして補強まで可能にする同社製品や補強工法で、老朽化した施設建物、社会インフラの大改修に挑みます。

社員一人ひとりが「研究員」

新素材の圧倒的技術を一関市大東町から

塗料界に革命をもたらす画期的な製品「染めQ」が誕生したのは平成14年。瞬く間に塗料を取り扱う様々な業種・個人から好評を得たことで、発売から間もなく、東北工場の創設が検討され始めました。

当時の大東町が誘致に成功し、町の厚い期待に応えるように地元高校生の採用にも尽力した同社(代表取締役 菱木貞夫)。「当時はいわゆる就職氷河期で、地元企業でも高校生の採用が厳しい時代でした。そんな中で当時11人も採用したのが弊社で、その当時は『そんな企業はなかなかない』とまで言われていたようです」と語るのは、第1期生で大東工場課長の菊池真広さん。「『塗料メーカーですか?』とよく聞かれますが、我々は『技術開発研究所です!』と自信をもって答えています」と続けます。

工場は平成17年に完成し、第1期生も入社。まずは本社研修でスキルを身に着け、そのノウハウを活かし「みんなで作り上げていったのが東北営業所・大東工場」だと菊池さん。ここ数年で、市内でも少しずつ「染めQ」という製品とともに、その一風変わった社名の認知度も上がってきましたが、同製品以外にも知る人ぞ知る新素材の開発・製造を行っており、大東工場では車を修理する人(工場、個人)から人気が高い「ミッチャクロン」という板金塗装向けの製品を主に製造しているのです。

「あのミッチャクロンの製造工場が一関にあるの!?」と、驚かれることも多いのだとか。大東工場で作られた製品は、国内のみならず、海外にも出荷されています。

「ヒトの成長」を第一に 福利厚生も怠らず

「一人ひとりの成長を応援する企業」である同社社員の肩書は、全員が「研究員」であり、人として常に成長できるよう毎月の研修制度や担任制度を導入しています。

「弊社はお客様の『困った』を解決すべく新製品の開発や工法の検討そして製品試験など、工場や営業所という部署間の垣根を超えて業務にあたっています。そのためには、社員全員が同じ方向(経営理念や企業テーマの認識統一)を向くことが大切」として、スポーツ大会や誕生日会などの行事、食堂の充実(ビュッフェスタイルやドリンクバーの完備)など、福利厚生や社員の親睦交流にも力を注いでいます。

そんな同社が2020年代からテーマに掲げるのが「大改修時代」。高度経済成長期に建設された建造物について、「再生・長寿命化・延命化」するための新素材の開発・施工技術を目指し、情報交換や互いの技術を磨いています。

「我々にはこの工場を守り、地域の雇用の場として根付かせることが求められる。地域のインフラを守り、社会に貢献していきたい」と菊池さん。「社長は一番下。役職がつけばつくほど下に行き、上を支える。だから新入社員はトップ」という同社の理念が、新たな製品を生み、地域の雇用の場も守り続けます。

1 「染めQ」と「ミッチャクロン」を手にする菊池真広大東工場課長。

2 市内施設等に寄贈(令和2年)した同社開発の除菌・抗菌スプレー。

3 同社製品でDIYした雑貨たち。

DATA
【東北営業所・大東工場】
〒029-0521
一関市大東町渋民字続石39-17
TEL 0191-71-1300
URL http://somayq.com/

毎月さまざまなテーマで地域づくりについて考えていくコラムです。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴㉟

若者は、ワカモノらしく

「若者」の存在

地域においては「若い人の参加がない」という課題があがってくる中で、新聞などを見ると、一関市では、‘若者活躍’の文字が目に付く最近です。若者の活躍は嬉しいことですし、この一関で若者の存在感があるということは頼もしい限りです。……とは言え、「若者の意見を優先して」「若者に議論してもらわないと」という声に対しては、若者ばかりに頼りすぎるのもいかがなものか？という不安も。

そもそも、「若者」ってどの年代を指すのでしょうか？

自治会や協働体など**「地域コミュニティ」**において「若い人の参加がない」と言った場合、想像するに**40～50代を中心**にしていて、いまの役員世代(60～70代)が引退した次の代のことを指しているように感じています。

一方、**新聞などで見かける「若者」**は、**学生や、20代を中心とした動き**のようなイメージです。まあ、「若者」の定義は広いので、どちらも年配者から見れば「若者」ではあるのですが、今回はあえて「40～50代」と、学生や20代の「若年層(いわゆるワカモノ)」とに分けて、両者に期待される役割の違いを見ていきます。

自治会などの地域活動では、70代以上が役の中心となっており、上述のように、彼らに対して「若い世代」と言った場合は、**40～50代＝地域活動の実動部隊や、次世代の役員候補**を指す傾向があり、求める役割は「地域運営」であるように感じます。**「継承」を意識する年代**でもあり、例えば**地域の文化や歴史、習わしなどに関わっていくべき年代**です。「世代間交流事業」を行っている地域もありますが、現状を見てみると「世代間」というより、祖父母世代と孫世代の交流事業が多い印象で、肝心の40～50代が関わっていない気がします。**継承のための世代間交流であれば、「三世代交流」を意識することが大事**なのではないでしょうか？

40～50代は、**現役の親世代**です。孫世代は、成長とともに関心のある内容が変化し、地域文化の継承につながる事業に関わっても、記憶の片隅に残る程度のもので、いざ必要となった時に聞くのは親世代。しかし、その**親世代が知らないという状況では、その時点で継承は途絶えるような状態**に。**中継ぎ**のような存在でしょうか。

一方、若年層の「まちづくり」への関心は高まり、**「起業」**という動きに。最近は「起業」することが容易になり、若年層の起業(学生起業含め)の話題も聞きますが、果たして、その起業は、「企業」として成立するのか？……は、なかなか難しいことです。

「起業」はできても、収入見込みは補助金や助成金がメイン＝税金をあてにしているようでは、持続性に欠けてしまいます。しかし、行政も、起業した若者に期待し、彼らに事業費をつけてしまう傾向が……。よっぽどの経験があるならまだしも、経験もなく、‘若いだけ’の起業に、過度な期待をすることは、はっきり言ってリスクが高いと言えます。

学生さんたちから「まちづくりに参画したい」なんて言われることもありますが、「若者なんだから、政策や制度なんて気にしないで、**想ったことを仲間内とワイワイやればいいのに**」と思っています。

今の時代、‘子どもが子どもらしくいられない’という表現もあり、同様に、**‘若者が若者らしくいられない’**のではと感じてしまいます。

かしこまったことをするのがまちづくり……ではなく、市民の想いがあちこちにあふれ、‘活動’になっていることが、‘イキイキとしたまち’ではないでしょうか。

失敗も経験も財産になるのだから、**予算ありきではなく、情熱を持って、時に暴走したりしながら、プレーヤーとして存在**する……。

次世代を担う若者の意見も大事ですが、**経験豊かな大人世代の責任の領域**もあり、**大人として次世代に何を残すか**もプライドだと思います。

「若者に」という逃げ口実を使わず、自分たちのまちや地域のことを、みんなで考え、みんなで支えていきましょう。

「日花里の郷日形」が休耕地で育てたソバを、「唐箕(とうみ)」にかけた時の様子。70代のみなさんは慣れた手つき。孫世代は興味津々で見つめます。今年はここに親世代も加わって、暮らしの知恵や術を継承する機会にしたいものです。

センターの自由研究

ミッション77 地名の謎ファイルNo.7 「ウサギ」がつく地名

市内にある「由来が気になる地名」について深堀りする「地名の謎ファイル」。第７弾は、令和５年の干支「卯」に着目。以前(2020年12月号)、にも「イノシシのつく地名」にスポットを当てたことがありますが、同様に「ウサギ」に関連する「卯／兎」が含まれる地名を調査し、さらにはその由来を探ってみました！結論から言えば、当初想定した、動物のウサギに関係する地名はなかったものの、興味深い話が多々出て来ました。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

「卯」「兎」「ウサギ」

ゼンリン地図で確認できた市内の「ウサギ」がつく**地名**は、東山町松川地内にある**「卯入道」「卯入道平」の２つ**。この２つは隣接しており、『東磐井の地名と風土』によると、「平」は「ヒラ」と読む場合「傾斜地」を指すのだとか。つまり「卯入道平」は「卯入道」の傾斜地を指すため、この２つは同じ地名と考えることができます。

では肝心の「卯」ですが、同文献では**「卯(ウツ・ウ)」＝狭い谷**、**「入(ニュー)」＝入り込んだ谷**、として、卯入道を**「狭く入り込んだ谷」**と説明しています(卯入道平はそのうちの傾斜地)。つまり、**動物のウサギとは関係がなさそう**なのです。

同様に、ヒアリングや文献調査で確認できた小字に**「兎口(一関市萩荘)」**がありますが、『岩手の地名百科』によると、その由来は、**「①『押え口』の転訛で、防備口。②兎口状の二股段丘のある土地」**とされており、やはり動物のウサギとは無関係。

さらに調査を進めると、**舞川に「烏兎ヶ森」、川崎に「烏兎山」「高烏兎山」、藤沢にも「高烏兎山」**という４か所の**山の名前**を国土地理院地図で確認することができました。興味深いのは、どの山も**「兎」だけでなく「烏」がつく「烏兎」**であること。

「烏兎」とは、一般的には**「カラス」と「ウサギ」**を指し、古く中国では、太陽の中に烏(金烏)、月の中に兎(玉兎)の象があるとしたことから、転じて**「太陽と月」**を意味したり、**「日月＝年月、歳月」**を意味するようです。

果たして当地域における「烏兎」がつく山の由来とは？気になる結果は左頁にてご紹介します！

東山町松川地内「卯入道」と「卯入道平」の風景。手前が卯入道、奥(山間部)が卯入道平。

※卯入道(平)・兎口・烏兎ヶ森・烏兎山・高烏兎山のほかに、市内の「ウサギ」がつく地名をご存知の方がいれば、当センターまでお知らせください(笑)

「卯」は「ウサギ」ではない!?

「十二支」の第４番目である**「卯」**は、「干支」のイメージで「ウサギ」をすぐに連想してしまいますが、そもそも「十二支」は中国で**「時間や方角」**を表すために使われ始めたものです。**そこに動物を当てはめたのは、覚えやすくするための後付け**とも言われています。つまり、**本来の「十二支」で「卯」が意味するのは、方角では「東」を、時刻では「午前５時～７時の間＝今の午前６時頃」**を指します。

実際、上述の「卯入道」の由来を考察した『松川史伝　二』には「(卯入道は)往古は大沼で今のような平坦な道がなく山の端を登ったり下りたりして通ったところだと言われており、(中略)、太陽は卯の方から出て卯の刻になると水面を煌々と渡っていくが人は通れないという事と、卯(海鳥)は渡れるが人は通れないという事を間接的に表した地名のようでもある」という記載が。

また、**「卯月」**となると、**「卯の花の月」**であり、**「卯の花」とは「ウツギ」**を指します。様々な説がありますが、「卯」は、ウツギを含めた**草木が繁る様子**を表すとも言われます。

これらのことを踏まえると、**「卯」のつく地名は、私たちがイメージしがちな動物のウサギに由来するのではなく、「方角」や「草木の生い茂るような場所」などに由来することが多い**のかもしれません。

「ウサギ(兎)」のつく「烏兎」を比べてみた

右頁でご紹介したように、一関市内には**「兎」という漢字を名称に使用している山が４か所も存在**します。さらに、この４か所に共通するのが**「烏兎」という組み合わせ**であること。果たして動物のウサギに関係する地名なのか否か、そしてこの４か所の山に共通点があるのか、実際に現地に赴き、山頂にも登り、かつ遠くからもその姿を眺めるなど、様々な切り口から考察してみました！

共通点１ 尖った山の形(突起＝ウトウ!?)

「烏兎」という漢字が名称に含まれる上記４つの山を並べてみると、どれも周囲の山に比べ、**山頂が尖っています**。定かではありませんが、**アイヌ語で「ウトウ」は「突起」**を意味するらしく、アイヌ語地名なのかと思いきや、**「ウド」という名称のうち「烏兎」「善知鳥」「宇道」という漢字の場合は「連峰、鈍頂の山や丘」**という、**真逆の見解**が記載された文献も。※なお、同文献だと「有道」「有戸」「宇登」という漢字の場合には「低くて小さい谷」の意味合いになるらしい。

烏兎山(うどやま)
一関市川崎町薄衣口永井
標高▶323.6m

高烏兎山(たかうどやま)
一関市川崎町門崎萩崎
標高▶287.7m

高烏兎山(たかうどやま)
一関市藤沢町西口
標高▶312.8m

烏兎ヶ森(うどがもり)
一関市舞川小戸
標高▶350.1m

共通点２ 信仰の対象？(烏兎＝神が宿る!?)

調査を進める中で、**長崎県雲仙市に「烏兎神社」**があることが判明。この神社、かつては**「摩利支天」**と称されていたとされ、「摩利支天」はサンスクリット語で**かげろう**や**日の光**を意味する言葉なのだとか。何か関連することがないものかと、実際に上記４つの山に登り、信仰の対象がないか捜索！するとそれぞれ**中腹や山頂に神社や祠があった**のです。

川崎町の烏兎山には古峯神社や養蚕の神を祀った石塔のほか、山頂に石祠があり、この石祠が**「日の神」**という話も(川崎町の高烏兎山にも同様の石祠がありましたが、詳細は不明)。藤沢町の高烏兎山には愛宕山神社(個人が管理)があり、舞川の烏兎ヶ森には「烏兎輪山観世音」と「岩倉神社」が。結果的に「烏兎神社」や「摩利支天」に関連する情報は得られなかったものの、**信仰の場としても大切にされていた山**であることは分かりました。

▼烏兎山(川崎町薄衣の山頂にある石祠

▼高烏兎山(川崎町門崎の山頂にある石祠

▼高烏兎山(藤沢町西口の山頂にある愛宕山神社

▼烏兎ヶ森(一関市舞川の中腹にある烏兎輪山観世音

共通点３ 「小戸(おど)」という集落の存在

舞川の烏兎ヶ森は**「小戸」**という住所に位置し、この地名は**「オド」**と読みます。また、烏兎ヶ森はかつて**「小戸ヶ森(オドガモリ)」**と表記されていたことも判明。それらに関連してか、舞川の烏兎ヶ森の周辺住民の中には、この山を現在も**「オド山」**と呼んでいる人が。

すると…！驚くべきことに、藤沢町の高烏兎山の周辺にも「小戸」という表記を含む**「西小戸沢」「東小戸沢」**という地名を発見(下記地理院地図参照)！さらに、『門崎村史』に記載されていた屋敷名の記録(出典不明)に、**「小戸屋敷」**という屋敷名と、そこに関連すると思われる**「小戸御林」「東小戸御林」**という記載が。「御林」とは幕府直轄の林(森林)であり、地図の記載がないため、現在の高烏兎山を指すのかは定かではありませんが、門崎村内に**「小戸」という表記の屋敷と御林があった**のです。

川崎町薄衣の烏兎山に関しては、小戸という表記の存在を確認するに至りませんでしたが、**３つの山の付近に確認できたことで、「小戸＝オド」が訛って「ウド」になったのではないか**という推測も……。そこに中国の「烏兎(太陽と月)」を取り入れ、「太陽の昇る山」というシンボル的な扱いにしたのか……などと、妄想は広がります。

＜参考文献＞　阿部和夫(1982)『東磐井の地名と風土』ほか　※その他、誌面では割愛させていただき、当センターホームページに掲載します。